

# 村上春樹『海辺のカフカ』の翻訳をめぐる諸問題 — 台湾・中国の中国語訳を中心として —

李 詠 青

## はじめに

一九九〇年代に入って村上春樹の作品は各国で次々と翻訳され始める。二〇〇〇年代に入ると刊行の地域は爆発的に増え、現在、世界で三十数カ国語に翻訳されている。アジアだけではなく、アメリカ、南米、ヨーロッパなどの地域でも幅広く翻訳されている。村上春樹作品の各国での翻訳状況からみると、一九八〇年代より村上春樹の翻訳作品を刊行していた国は、中国、台湾、韓国、アメリカなどである。そして、翻訳作品を通して世界的な「村上春樹ブーム」が各国の読者の間に起った。

本論文は二〇〇三年に台湾と中国で出版された『海辺のカフカ』の中国語訳の翻訳をめぐる諸問題に考察の対象を絞りたいと思う。

村上春樹『海辺のカフカ』の中国語訳としては台湾の頼明珠氏と中国大陆の林少華氏によるものがある。いずれも二〇〇三年、ほぼ同時に時報出版社（台北）と上海訳文出版社（上海）より出版されている<sup>1)</sup>。頼氏の訳本は二〇〇三年一月・四月の順に村上春樹の日本語原著と同じように、上・下二冊として出版されたのである。総ページ数は二冊で合計679ページになっている（上巻322ページ、下巻357ページ）。林氏の訳本は一冊で、総ページ数514ページである。一方、日本語原著は上・下で合計826ページである。（上巻397ページ・下巻429ページ）中国語訳は漢字によって表現が圧縮されるため、同じ文章を日本語から中国語に翻訳すると、比較的文字数が少なくなる。しかし、頼氏の訳本は林氏より165ページ増えている。これも二つの訳本の差異の一つである。

『海辺のカフカ』に代表されるように、村上春樹の小説にはいつも大量の外来語が溢れている。またこの小説の「猫の章」における登場人物の「ナカタさん」は字が読めない人物として造型されているため、作者が意図的に漢字を仮名表記にする箇所（例：補助—ホジョ、金融論—キンユウロン）がある。しかし、漢字しかない中国語を用いて訳者たちが「カタカナ表記」をどのように訳すかは、翻訳上重要な問題点である。以下の本論文においては、中国語漢字で訳した「カタカナ表記」の箇所が原文の意味と合っているかという点について例文を挙げながら究明したいと思う。本論文では『海辺のカフカ』の「カタカナ表記」の箇所を中心に取り上げて、頼明珠氏と林少華氏の中国語訳を対照しながら、比較して論じる。

ところで、村上春樹自身は自分の作品が翻訳されることについて、このように言った。

自分の創り出した文章世界が、他の言語システムに入れ替えられることによって、僕は僕自身との間にひとつ乖離を作ることができたような気がして、それで結構ほっとするのだ。…(中略)  
だから僕は僕なりに、母国語たる日本語を頭の中で一旦擬似外国語化して——つまり自己意識内

における言語の生来的日常性を回避して——文章を構築し、それを使って小説を書こうと努めてきたとも言えるのではないかと思う<sup>2)</sup>。

日本は台湾、中国と同じ漢字文化圏に属しているが、カタカナ語、外国語が大量に使われている村上春樹の作品を中国語に翻訳する際に、英語訳とは異なった問題が生じる場合があると考えられる。外来語の原文は英語または欧語である場合が多いので、漢字圏の翻訳者にとって、外来語を原語に還元してから翻訳する場合は意味の変化が生じる可能性がある。中国語訳を読む読者はどのように村上春樹の作品を理解しているか、また地域によって異なる翻訳者の訳本を読むと異なる受容が生じるか、これらの問題を探求する前提として以下の中国語訳に関する検討を行いたい。

中国語圏に属している中国大陆と台湾であっても地域によって言葉の表現は違っている。本論文では地域によって違う言葉の表現を除いて、林訳と頼訳の翻訳の手法、正確度についての検証を通して、その二種の中国語訳を受けとった読者の受容について探究したいと考える。

本論文は村上春樹『海辺のカフカ』(上、下新潮社)を底本として、頼明珠氏訳の《海邊的卡夫卡》(上、下時報出版社)と林少華訳の《海边的卡夫卡》(上海訳文出版社)と比較対象をおこなう。なお、中国語訳の例文を取り上げる際に、台湾の頼明珠訳は繁体字中国語で、中国の林少華訳は簡体字中国語で表示する。

### 一、村上春樹作品の翻訳事情—台湾・中国をめぐる

台湾で最初に出版された村上春樹作品の中国語訳は『1973年のピンボール』<sup>3)</sup>である。一九八六年から一九九三年まで、合計七部の中国語訳の作品が台湾で出版された。<sup>4)</sup>

しかし、これらの中国語訳本はすべて翻訳の著作権なしの出版であったため、ほとんど絶版になった。現在、台湾の村上春樹作品の中国語訳本は時報出版社が「藍小説」シリーズとして出版している。主な翻訳者は頼明珠氏である。二〇〇六年まで、時報出版社「藍小説」シリーズとして出版された村上春樹の中国語訳作品は合計34部である。その内容は長編小説11部、短編小説11部、中篇小説2部、エッセイ・ノンフィクション10部である。いずれも海外の翻訳著作権の許諾を取得したものである。

一九九九年以降、『スプートニクの恋人』、『神の子どもたちはみな踊る』の中国語訳は村上の原著と同じ年に出版されている。さらに二〇〇二年九月出版された『海辺のカフカ』の中国語訳は二〇〇三年二月に時報出版社が出版したのである。なぜ台湾の村上春樹作品の中国語訳は計画的に翻訳・出版されているのであろうか。その原因は一九九〇年代以降、日本の流行文化が大量に台湾へ流入し、村上作品の持つファッショナブルで、都会的な雰囲気台湾読者の心をつかんだことにある。また、村上作品の中に登場する商品は無国籍的・越境的であるため、台湾読者はスムーズに「村上春樹ワールド」に入ることができる。

田建新氏は、中国の村上春樹の翻訳事情について、次のように述べている。

1986年2号の『日本文学』による「街と、その不確の壁」「鏡」の両短篇である。88年2号の『外国文学評論』、88年4号の『世界文学』、88年6号の『外国文芸』、88年6号の『外国文学』などの評論専門誌に相次いで、村上春樹に関する経歴、日本での論評、本の売れ筋とその読者層などが詳しく紹介され、ほぼ同時期に『外国文芸』と『外国文学』が一斉に「貧乏な叔母さんの

話」と「象の消滅」の両作品を翻訳した。91年「漓江出版社」から同氏（作者注：林少華氏）の「ノルウェイの森」が翻訳されると同時に、全共闘も紹介された。書評では“作品は改めて60年代末を舞台に据えた意味が大きい”と言う。<sup>51</sup>

つまり、最初の村上春樹作品の中国語訳がほぼ同じ時期に台湾と中国に「上陸」したのである。

中国語圏の村上春樹作品の翻訳者は、台湾の頼明珠氏、中国の林少華氏、香港の葉蕙氏である。『海辺のカフカ』の中国語訳は頼氏と林氏の訳本しかないので、ここでは二人の来歴と台湾・中国での翻訳事情について説明する。

頼明珠氏は現在、台湾で中心的な村上春樹作品翻訳者として活躍している。一方、林少華氏は台湾の頼氏と同じように、中国を代表する村上春樹作品の翻訳者として活躍している。<sup>617</sup>

一九九九年に短編小説「蜚」の中国語訳が出版される前には、時報出版社の村上春樹作品の中国語訳本はすべて頼明珠氏の翻訳であった。村上作品の翻訳者はほかに張致斌氏と李友中氏がいるが、しかし、二〇〇六年現在まで、頼明珠氏は主要な村上作品の翻訳を担当してきている。このことからわかるように、頼明珠氏が台湾の村上春樹の代弁者のような存在である。このように翻訳者が決まっていることで、出版社は計画的に村上春樹の中国語訳作品を出版できるのである。また、訳者が同じであることにより、読者に同じような作品の雰囲気とニュアンスを伝えることが可能になるのであろう。

一方、村上春樹の作品は中國大陸の読者に対して、まったく新しい雰囲気を持っていた。翻訳家の頼明珠氏と違って、林少華氏は現在中国における主要な村上春樹作品翻訳者であると同時に、日本文学研究者でもある。園山延枝氏は林氏の翻訳に対して、次のように評価している。

林少華は「世界」—既存の価値観の集積—と一体化している。少なくとも、林の文章は「世界」との一体化が前提になければかけないのである。…（中略）自分の価値観が「世界」に正しく所属している確信を持つからこそこのよう訳文<sup>81</sup>が生まれるのであり、自己の価値観の受容を「世界」に否定された経験を持つ人間にそのような確信は持てない。自己の価値観と「世界」の深刻な衝突に苦しんでいる登場人物たちを再現するための訳文に違和感を覚えるのは、林にはそのような苦悩が読み取れていないからであると考える。<sup>91</sup>

『海辺のカフカ』の中国語訳本の出版と翻訳事情については次の通りである。まず、上海訳文出版社が出版した《海邊的卡夫卡》には村上春樹自身が書いた序文がある。（《海邊的卡夫卡》中文版序言）。二ページ程度のその「序文」は「二〇〇三年初春」に書いた刊期がある。林少華氏も「訳者の話」（解説）を書いている。村上春樹はこの序文の中で、なぜ十五歳の少年を主人公とする物語を書いたのか、その理由について述べている。林少華氏が「訳者の話」でカラス、カフカについての「メタファー」について解説し、二〇〇三年一月十五日に村上春樹を訪問した際の内容も要約し紹介している。さらに、自分が一九八九年に「ノルウェイの森」を翻訳した際の翻訳事情などについても触れている。

一方、時報出版社が出版した《海邊的卡夫卡》には、作者の序文も翻訳者の解説も付いていない。実は、時報出版社が出版した「藍小説」シリーズの村上春樹翻訳作品はほとんどこうした序文の類を付けていないのである。これは翻訳者は読者たちが村上春樹を十分認識しているのを想定しているか

らと考えられている。

## 二、原文と訳文の比較

本章では村上春樹『海辺のカフカ』の日本語原文と二つの中国語訳本を対照しながら、比較してみたいと思う。比較範囲は以下の通りである。

\* 日本語原文：『海辺のカフカ』上 第1章～第23章 (P. 1～P. 397)

\* 繁体字中国語版：頼明珠氏が訳した《海邊的卡夫卡》上 第1章～第23章 (P. 1～P. 322)

\* 簡体字中国語版：林少華氏が訳した《海边的卡夫卡》第1章～第23章 (P. 1～P. 249)

また、それぞれの日本語、中国語を引用する際に、村上春樹原著は「原文」と略称する。頼明珠氏の訳本は「頼訳」、そして林少華氏の訳本は「林訳」と略称する。

台湾・中国は同じ中国語を共通言語として使っているが、漢字表記（繁体字と簡体字）のほかに、言葉遣いも地域によって多少異なっている部分がある。本章では、カタカナ語を中心となる語彙の訳し方とその差異に焦点を絞りたい。

比較方法としては、例文を「商品」、「商店名」、「英語を中心として外国由来の語」、「カタカナ表記」、「人名」、「バンド名・曲名」など分類して、その中で独特な例文をあげながら、頼訳と林訳の異同を説明したいと考える。また、原文より合計108個の単語をピックアップして、[付録1]のようにまとめた。

### 1. 商品

村上春樹の作品には商品名がたくさん溢れている。『海辺のカフカ』も例外ではない。村上が作品中に商品名・ブランド名を使う際に、そこには必ず何らかの意味が込められていると考えられる。たとえば、マツダのロードスターは『海辺のカフカ』においてとても重要な商品イメージを持った車であるが、しかし、翻訳者が翻訳したときに、原作者のこの商品名を使う意図が消滅するケースもある。マツダのロードスターの翻訳はその一例である。

**原文** マツダのロードスターだ。(上、186)

**頼訳** 是 Mazda 的 Roadster。(上、153)

**林訳** 马自达活动顶蓬式。(118)

頼訳はメーカー名と車名を英語のままに訳した。林訳ではマツダを音訳で「马自达」と訳し、ロードスターを「活动顶蓬式」(オープンカー)と意識した。「马自达」(馬自達)は台湾・中国で通用している車のメーカー名である。ロードスターは中国と台湾で生産されていない車なので、頼訳の直訳にしても、林訳の意識にしても、一般読者にとって、「ロードスター」はどのような車かすぐ思いつかないと思われる。つまり、日本のロードスターが持っているイメージが日本とは違う中国語文化圏におかれると、読者が日本の読者とまったく異なるイメージで受容する場合があります。

### 2. 商店名

中国語圏では一般的でない商品・商店名の翻訳が一番難しいところだと思われる。翻訳者は読者た

ちによく理解させるために、地元で類似した商品・商店名を代わりに訳す場合もある。しかし、翻訳者の理解や認識によって、誤訳または原文にない訳語を入れている場合もありうる。例えば下記のような例があげられる。

**原文** 消費者金融の大きな広告看板、人目を引くために大仰に飾りたてガソリン・スタンド、ガラス張りの食堂、西洋のお城のようなかたちをしたラブホテル、つぶれて看板だけを残した貸しビデオ店、広い駐車場のあるパチンコ屋——そういうものが僕の前に現われてくる。マクドナルド、ファミリーマート、ローソン、吉野家……、騒音に満ちた現実が僕らを取り囲んでいく。(上、269～270)

**頼訳** 消費者貸款の大型廣告招牌、爲了引人注目而誇張裝飾的加油站、大玻璃窗的餐廳、造型像西洋城堡似的賓館、只剩看板的倒閉錄影帶出租店、有寬闊停車場的柏青哥——這些東西——出現在我眼前。麥當勞、7-11、Lawson、Skylark、Denny's……充滿噪音的現實逐漸包圍住我們。(上、219)

**林訳** 消费貸款的巨幅廣告板，为引人注意裝飾得花花綠綠的加油站，落地玻璃窗餐館，西洋城堡樣式的愛巢旅館，关门大吉后只剩招牌的录像帶・出租店，有很大停車場的爬金庫游戏厅——這些東西展現在我的眼前。麦当劳、家庭式商場、羅森超市、吉野家…充滿噪音的現實感把我们包圍起來。(169)

頼訳ではファミリーマートと吉野家を訳していない。その代わりに、原文にない Skylark、Denny's を加えている。恐らく「ファミリーマート」のかわりに、「セブン・イレブン（7-11）」を翻訳する際に加えたと推測される。一方、林訳は「ファミリーマート」を「家庭式商場」（家庭式の商店）と訳した。また、林訳の注においては「吉野屋」は日本のチェーンの牛丼屋」と説明した一文が加えられている。

### 3. 英語を中心とした外国由来の語

〔付録1〕にまとめた合計108個の単語の中で、最も多いのは英語を中心とする語である。日本語でごく普通に使われている外来語であっても、中国語使用者は基本的に一度英語に還元したうえで、中国語に訳すことになる。日本語で単語一つですっきり表現できるものは、中国語に翻訳されると、一つの単語で表現できない場合も少なくない。たとえば、次の例文の「ハイビーム」はその具体的な例である。

**原文** でも大島さんはライトをハイビームにし、スピードをほとんど落とさずに先を急ぐ。ブレーキとアクセルのやりとりが多くなり、ギアがセカンドとサードのあいだを行き来する。(上、195)

**頼訳** 不過大島先生把車燈開成遠光，速度幾乎不減地向前疾駛。煞車 and 加油的切換頻繁起來，排檔在二檔和三檔之間來回。(上、160)

**林訳** 但大島把车灯光束开得足足的，几乎不減速地風馳電掣。制動和加速頻頻轉換，車檔在2與3之間往返。(124)

頼訳は「ハイビーム」を「遠光」（台湾で車を運転する時に、よく使われている言葉）と訳し、林訳では「车灯光束开得足足的」（車のヘッドライトを十分照らすようにした）と意識している。

#### 4. カタカナ表記

意図的に漢字をカタカナで表現するのは『海辺のカフカ』の表記の独特な点の一つである。登場人物の「ナカタさん」が「字を読めない」ことを読者に示すため、作中人物の会話を意図的にカタカナで表記しているのである。ただし、普段は基本的に漢字しか使用しない中国と台湾において、日本語のカタカナ表記に相当するものがない。次のような例文があるがこの場合翻訳上は次のような問題が生じることになる。

**原文** 「…(略) 大学のえらい先生でありまして、キンユウロンというものを専門にしておりました。…(中略) 一人はイトウチュウというところでブチョウをしておりますし、もう一人はツウサンショウというところで働いております。…(中略)、ウナギを食べております。」(上、80)

**頼訳** 「…他是大學裡很偉大的教授，專門研究所謂金融論的…。一個在一家叫做伊藤忠的公司當經理，另一個在叫做通產省的地方上班。…，吃著鰻魚。」(上、67)

**林訳** 是很了不起的大学老师，专门研究金融学来着。…。一个在叫伊藤忠的地方当部长，另一个在叫通产省的地方工作。…，吃鳗鱼。”(51)

翻訳者は作者の「カタカナ表記」の意図を意識しているが、頼訳も林訳もすべてのカタカナ表記を中国語漢字で表現した。意味的にはほぼ正確に翻訳されているが、しかし、「ナカタさん」が「字を読めない」というニュアンスは読者には伝わらないであろう。また、頼訳では「ブチョウ」を台湾でよく使われている「經理」(manager) と訳しているのは一種の意識であるが、林訳では「部長」と直訳している。

#### 5. バンド名・曲名

村上春樹の小説の中に、登場するバンド名・曲名はほとんどヨーロッパか北米のものである。中国語に翻訳する際に一度原語（英語）に戻さなければならない。そして、そのバンド名・曲名の中国語訳があれば、その語を用いて翻訳することになる。一方、原語（英語）のままに翻訳している場合もある。たとえば、以下のようなケースがある。

**原文** クリームを聴き、デューク・エリントンを聴く。そういった古い時代の音楽を、僕は図書館の CD ライブラリーから録音した。僕は『クロスロード』を何度も繰り返して聴く。(上、232)

**頼訳** 聽了 Cream、聽了 Duke Ellington、這些古老時代的音樂，我是從圖書館的 CD Library 錄來的。Crossroads 我重複聽了好幾次。(上、189)

**林訳** 听奶油乐团、听埃林顿公爵。这些旧日音乐是我从图书馆的 CD 架上录下来的。(146)

頼訳はバンド名、歌手名、曲名...すべてを英語で訳しているが、林訳は漢字訳名で訳している。また頼訳は「CD ライブラリー」を CD Library と訳したが、林訳は「CD 架」と訳している。この「架」は日本語の「棚」の意味である。また、林訳は「僕は『クロスロード』を何度も繰り返して聴く。」の箇所は訳しておらず、簡略された訳となっている。

### 三、中国語訳の特徴

先の二章では『海辺のカフカ』の日本語原文の外来語・外国語及びカタカナ表記などについて、台湾の頼明珠訳と中国の林少華訳を比較した。特にカタカナ表記、商品名、外来語の訳し方や、または翻訳の差異に焦点を当て、例文について検証をおこなった。頼訳と林訳の訳文と原文との差異については、以下の三点に整理することができる。

#### 1. 外来語表現の翻訳

『海辺のカフカ』だけではなく、外来語の使用が多いことは村上春樹作品の特徴の一つである。しかし、一旦外来語が中国語で漢字に訳されてしまうと、原文の持つ「外来語で表現したい外国の雰囲気」が消えることになる。まず、今回取り上げた外来語例文の中で、「食品」、「商品ブランド」、「その他」から説明する。

##### A. 食べ物の外来語表現の中国語訳

中国語訳は基本的に漢字しかないため、外来語も漢字音訳または意訳するしかない。

「コーンフレーク」、「スモークサーモン」、「ダージリン」、「マーガリン」、「レタス」などの外来語食品名は日常生活にもよく使われている名詞なので、漢字に訳されても意味は変わらないと思われる。

ただし、中国・台湾の日常食生活に滅多に現れていない「ホースラディッシュ」、「スピナッチ・ラップ」、「トルティーア」などを中国語漢字を用いて訳したのでは、原文が強調したい「西洋的」な雰囲気が消えてしまうと考えられる。たとえば「ホースラディッシュ」の翻訳について、台湾ではホースラディッシュ (horseradish)、マスタード (mustard)、わさび (wasabi) はどちらでも「山葵ソース」と称する。頼訳は「山葵醬」(山葵ソース) と訳し、林訳はホースラディッシュを「辣根」という学名で訳している。一方、「スピナッチ・ラップ」、「トルティーア」などを中国語に訳してみても、メキシコ料理を食べたことがない読者にとっては、それがどのような食品であるか理解できない可能性もある。

##### B. 商品ブランドの外来語表現の中国語訳

林訳は「ラルフ・ローレン」、「トップサイダー」、「マツダのロードスター」などの商品ブランドを音訳の中国語漢字で訳している。一方、頼訳はそのブランドの英語名で訳した。「ラルフ・ローレン」、「マツダ」は台湾にも中国にもあるブランドなので、漢字に訳しても読者が「外来商品」だと受けとめるであろう。しかし、「ロードスター」という商品名の車は台湾と中国にはないので、英語名に訳しても、ロードスターを「可動式のオープンカー」に意識しても、読者に

とって理解しにくいものである。さらに、林訳は「トップサイダー」(Topsider)を「最高档的草果牌」(「一番高級(トップ)なアップルブランド」)に訳した。恐らく、「トップサイダー」をそのまま訳しても読者に通じないので、その代わりに、中国にあるスニーカーのブランドで訳したのであろう。

このような訳し方は、ほかの中国語の翻訳者も使ったことがある。たとえば、香港の葉蕙(『ノルウェイの森』の訳者)は国際シンポジウム「世界はどう村上春樹を読むか」のワークショップ1「翻訳現場から見る村上ワールドの魅力」で、次のように発言している。

たとえばこの作品(作者注:「スパナ」)にはニッサン・スカイラインという車が出てきますが、香港では走っていません。中国では外国の固有名詞を訳す時、よく似た発音の漢字をあてるといっていますが、「スカイライン」にぴったり漢字は思い浮かびませんでした。そこで、仕方なく、Skylineとアルファベットで表記することにしました。<sup>101</sup>(傍線引用者)

一方、同ワークショップでアメリカの翻訳家ジェイ・ルービン氏(Jay Rubin)は次のように指摘している。

日本車はアメリカで売る時には必ず違う名前をつけるんですね。…(中略)スカイラインは、Nissan Infiniti G35という名前に変わるんです。<sup>102</sup>(傍線引用者)

ジェイ・ルービン氏と類似の発言をしたのはノルウェイの翻訳家イカ・カミンカ(Ika Kaminka)である。

…(略)『海辺のカフカ』では主人公がどんな車に乗っているかはすごく重要な意味をもちます。そうした場合は、イメージが近くて、ノルウェイ人にもわかるような別の車の名前に変えるということもします。<sup>103</sup>(傍線引用者)

このように、訳者が日本に特徴的な商品名を翻訳される言語圏で通用する商品ブランド名で代行することは中国語訳者に限られたことではない。しかしながら、代わりに用いられた商品ブランドは原文と異なっており、原作者の意図をきちんと正確に伝えているかどうかは問題が残る。

### C. その他の外来語表現の中国語訳

「マツダのロードスター」という車に対する描写に関してロードスターはオープンカーで一種のスポーツカーである。作者は大量のカタカナ表記を用いて、車の装備や性能を描写している。しかし、「オープン・ツーシーター」、「シフトアップ」、「シフトダウン」、「ハイビーム」などが中国語に訳されてしまうと、それらを読者は単に車の装備や性能としてしか受けとらないであろう。そして日本で持たれているロードスターのイメージを中国語圏の読者は感じ取れなくなってしまうのである。

また、「チノパンツ」、「ダンガリーシャツ」、「ヨットパーカー」、「ウインドブレーカー」など

は中国語にも存在する類似の服装種類に訳されている。同じ場合は、それらが英語圏で翻訳される場合には、中国語訳のような意識の必要なしに直訳が可能であると思われる。

このように、村上春樹作品の中の外来語表現は英語圏・欧語圏の読者と比較して、中国語圏の読者にとっては理解の上で障害が生じる場合がある。そして、翻訳する際の正確度と原文との一致性も英語訳等より中国語訳は低くなると思われる。

## 2. カタカナ表記の中国語訳

『海辺のカフカ』の登場人物の「ナカタさん」の人物造型読者に示すために、村上春樹は元々漢字表記の言葉をカタカナで表記している。しかしながら、カタカナ表記の箇所を林訳も頼訳も漢字で表現していた。これでは読者に「ナカタさん」が字を読めない人物であるという作品中の重要な設定を伝えることができない。これは翻訳上の重大な欠陥である。

中国も台湾も「アルファベット」に相当するものがある。たとえば中国の「ピンイン」と台湾の「注音符號」は、いずれもパソコンに入力する際に使われるアルファベットである。台湾の小学生は漢字を習う前に、必ず「ピンイン」もしくは「注音符號」を覚える。しかし、漢字そのものを理解した後では、「注音符號」等はパソコンに入力する時以外ほとんど使わないだろう。字を読めない「ナカタさん」の会話を読者に伝えるには「ピンイン」か「注音符號」で訳したほうがいいかもしれないが、「通産省」、「伊藤忠」、「東名」など日本国内での名詞をアルファベットで訳したのでは、読者はかえって戸惑うのではないかと思われる。

中国語訳はカタカナ表記の箇所を漢字のままに訳したため、読者が理解した「ナカタさん」（中国語訳：中田先生）のイメージは日本の読者が受容した「ナカタさん」のイメージとは異ってくる。例えば、国の補助や都バスの障害者特別バスを受領している「ナカタさん」の会話が「ホジョ（補助）」、「ショウガイシャ（障害者）」、「とくべつバス（特別バス）」と表記されるときに、作者が示したい「字を読めない」、「言葉の意味が良くわからない」失語の「ナカタさん」は中国語訳によって、本来の人物像が変化することになる。

村上春樹の小説はカタカナ表記が多く溢れているが、基本的にカタカナで表記されるのは、一部の人名以外で（たとえば『ノルウェイの森』のギズキ君）、大部分は曲名、食品名、服装名、外国の人名、商品名、ブランド名または和製英語などである。『海辺のカフカ』で特定の人物による会話内容をカタカナ表記するケースは村上春樹の従来の作品と比較して独特な例である。従ってこのようなカタカナ表記の扱いは中国語の翻訳上無視できない問題となる。

## 3. 頼訳と林訳の特徴

常用ではないカタカナ語の訳し方について、頼訳は文末の「注」の代わりに、括弧（ ）で英語または訳者注をつける場合が多く、一方、林訳は文末に注を付けることが多い。また、人名、曲名、商品ブランド名については、頼訳はほとんどブランドの英語名で表示しているが、林訳は中国語に音訳してから、場合によって文末に注で説明を加えている。

頼訳は原文の語順や意味と一致性が高い。しかし、場合によって台湾に存在しないまたは数が少ない商店名などについて、現地に存在する商店・商品名（原文と類似するもの）で置き換えることもある。頼訳だけでなく、林訳も同様である。また、頼訳はシンプルな中国語文章で翻訳している。頼

訳と比較してみれば、林氏の訳文はより訳語に拘った中国語文章である。これは頼訳には直訳が多く、林訳は意識の箇所が多く存在することと対応している。

全体的にみれば、ほとんど直訳に近い頼訳より、林訳は意識の場合が多い。そして、文末に注をつけるのは林氏の日本文学研究者としての背景と関わるのであろう。林訳と違って、頼訳は括弧付きで外来語の英語（または外国語）を付しているが、商品名、人名または戯曲名などについての説明はない。もちろん、一部のブランド名または人名は、台湾の読者にとってもとても親しみが深いものであることが理由かもしれない。しかしながら、『エレクトラ』、『ソフォレクス』などは注なしには台湾の一般読者にはわからないであろう。ただし、「原文の意味を正確に読者に伝える」ことは訳者として最も重要な役割だと思われる。一体、翻訳者はどんな程度の注や説明を訳文に付け加えるべきなのについても、まだまだ検討の余地が残されている。

#### 四 翻訳で「海辺のカフカ」を受容する読者の問題

二〇〇六年三月二十五日、二十六日に、国際交流基金主催の国際シンポジウム「世界は村上春樹をどう読むか」(How the World Is Reading and Translating Murakami)が東京大学で行われた。世界各国の村上春樹作品の翻訳者を集め、シンポジウムを開催したのである。そのワークショップ「グローバリゼーションのなかの村上文学と日本表象」において、香港の村上春樹研究者梁 秉 均氏は次のように発言している。

今現在においては村上作品は台湾でも香港でも中国本土でも翻訳されています。にもかかわらず、受容においては香港と台湾、それから中国本土では大きい違いがあります。私の考えでは村上春樹の文学は都市部の文学に入ると思うのですが、都市文化のメンタリティというものが中国本土の人々に理解しにくいかもしれませんが。<sup>13)</sup>

梁氏が述べる「都市文化のメンタリティ」に関しては、よく似た視点から四方田犬彦氏は海外で「ハルキ・ブーム」が起きた原因について、以下のように指摘している。

村上は、これまでの谷崎潤一郎や川端康成と違い、日本文化を代表する作家として海外で翻訳され、消費されているのではない。どこの社会でも、自分たちの政治的挫折や恋愛感、孤独と虚無を癒してくれるテキストとしてまず受け入れられ、読者はそのあとで、著者が日本生まれであり、手にしていた書物が実は翻訳書であったことに改めて気づくと言った按配である。なるほど村上日本語で執筆する日本の作家ではあるが、彼が依拠している文化的感受性や、言及している音楽や映画、あるいは都市生活のあり方は、今日のグローバリゼーションのなかにあって世界的に流通し浮遊しているのであって、特定の土地や民族に帰着しえない性格を持っている。<sup>14)</sup>

また、村上春樹の小説の日本的ステレオタイプの不在について、同氏は次のように続けている。

だが、ハルキの小説には、こうした伝統的な日本らしさを感じさせるものがほとんど存在していない。いうなればそれは、文化的無臭性において国境を越え、外国人に強く支持されることに

なったのだ。『ノルウェイの森』のなかにはビートルズへのノスタルジアはあっても、サムライもゲイシャも登場しない。いわば日本的ステレオタイプの不在において、この小説は際立っているのである。

日本以外の読者は翻訳を通して村上春樹作品を読む人が大多数である。その際、翻訳者が正確に原文の内容を忠実に読者に伝えるかどうかということはとても重要なことである。さらに、拙論で触れた外来語の訳し方の問題など、外国語になった村上春樹の作品が原文ニュアンスを残したまま読者に伝えられることは読者の受容するに際して影響を与えることであろう。いわば翻訳者はまるで原作者の「代弁者」に相当する存在である。梁氏の言うように、「都市文化のメンタリティ」というものは中国本土の人々には理解しにくいかもしれない。もし中国本土の読者が台湾の頼訳の『海辺のカフカ』を読めば、きっと林訳を読んだ読者とは異なる村上春樹作品を受容するのではないだろうか。

また、四方田氏の指摘するように、村上春樹の作品はまさに無国籍的であり、越境的である。いわば村上春樹の読者たちは、その訳本を通して「異文化」への接触を体験すると言うよりも、「グローバル化」の中にある都市文化の共通した感性を受容していると考えられる。

本論文では主として『海辺のカフカ』における翻訳上の問題の一部で検討比較したのみであり、また台湾と中国の読者がどのように『海辺のカフカ』を受容しているかという問題は単に中国語訳を比較するだけでは不十分であることはいうまでもない。今回の中国語訳の比較を出発点として、今後は中国語訳と原作の文体の比較と言った翻訳上の諸課題から、読者の受容の問題までより深く探求したいと考えている。

## 注

- 1) 頼明珠訳《海邊的卡夫卡》上 二〇〇三年一月、頼明珠訳《海邊的卡夫卡》下 二〇〇三年四月、林少華訳《海邊的卡夫卡》 二〇〇三年二月。
- 2) 村上春樹「翻訳することと、翻訳されること」(『遠近』山川出版社2006年8・9月号 P.8-9)
- 3) 《失落的彈珠玩具》頼明珠訳 台北 時報出版社 1986年)。
- 4) 『夢で会いましょう』(《夢中見 日本極短篇》圓神出版社 1988)  
『パン屋再襲撃』(《麵包屋再襲撃》皇冠出版社 1989)  
『ノルウェイの森』(《挪威的森林》故郷出版社1989)  
『ノルウェイの森』(《挪威的森林》可筑出版社1992)  
『TV ピーブル』(《電視國民》皇冠出版社 1990)  
『回転木馬のデット・ヒート』(《迴轉木馬的終端》遠流出版社 1991)  
『ダンス・ダンス・ダンス』(《舞・舞・舞》上、下 故郷出版社1991)  
『国境の南 太陽の西』(《國境之南、太陽之西》故郷出版社 1993)
- 5) 田建新「中国の村上春樹―『新鮮血液』」(『国文学』学燈社1995年 3月)。
- 6) 一九四七年台湾苗栗に生まれ、一九六九年に中興大学農業経済学科を卒業している。その後、研究助手を経て、広告会社のコピーライターになった。一九七五年から一九七八年にかけて千葉大学園芸学部農業経済研究室に留学し、鈴木忠和教授の指導を受けた。一九八五年から二〇年間で約三十冊の村上春樹の作品を翻訳し、中国時報出版社より出版している。現在は翻訳家である。最初に翻訳した村上春樹の作品は『1973年のピンボール』であった。

- 7) 一九五二年中国山東生まれ、吉林大学文学修士である。暨南大学外国語学科（1982～1983）、日本長崎県立大学（1983～1986）、暨南大学文学院（1996）、青島海洋大学（1999）などの大学で教鞭をとったことがある。二〇〇二年には特別研究員として東京大学で活動に従事している。現在、中国海洋大学外国語学院教授である。最初に翻訳した村上春樹の作品は『ノルウェイの森』であった。
- 8) 園山延枝「中国における村上春樹「受容」—翻訳者・林少華の評価を中心に考察—」（『野草』中国文藝研究会 第76号 2005年 8月 P. 76～P. 89）。
- 園山氏がP. 83で引用した『ノルウェイの森』の例文は以下の通りである。
- （傍線とカッコ付きの中の頁数は園山氏が引用したまま）
- うしろから見ると彼女の腰はびっくりするくらいほっそりとしていた。まるで腰をがっしりと固めるための成長の一過程が何かの事情で飛ばされてしまったんじゃないかと思えるくらいの華奢な腰だった。（P. 100）
- 从后面看，她的腰格外的窈窕，简直像在使腰肢状实起来的发育过程中，不知道什么原因跳了一个阶段：就是这样美不胜收的腰。（81頁）
- 9) 園山延枝「中国における村上春樹「受容」—翻訳者・林少華の評価を中心に考察—」（『野草』中国文藝研究会 第76号 2005年 8月 P. 76～P. 89）。
- 10) 「ワークショップ1 翻訳現場から見る村上ワールドの魅力」（『文学界』文藝春秋 第六十巻 第六号 2006年 6月 P. 141）。
- 11) 「ワークショップ1 翻訳現場から見る村上ワールドの魅力」（『文学界』文藝春秋 第六十巻 第六号 2006年 6月 P. 141）。
- 12) 「ワークショップ1 翻訳現場から見る村上ワールドの魅力」（『文学界』文藝春秋 第六十巻 第六号 2006年 6月 P. 145）。
- 13) 「ワークショップ1 翻訳現場から見る村上ワールドの魅力」（『文学界』文藝春秋 第六十巻 第六号 2006年 6月 P. 161）。
- 14) 四方田犬彦「ハルキ・ブームをどう考えるか」（『遠近』山川出版社2006年 8・9月号 P. 10-11）。

## A Comparison of Chinese Translations on Haruki Murakami's "Kafka on the Shore"

LEE Yungching

The Japanese writer Haruki Murakami's works are widely translated by over 35 countries in the world nowadays. This study is focused on the comparison of Chinese translations between the Taiwanese (traditional Chinese) and Chinese (simplified Chinese) translation.

"Kafka on the Shore" is the main text in this study. The translation of *katakana* is the most important assignment. Author tries to investigate the foreign readers' understanding and reception through the different translations. Meanwhile, exploring the difference and mistranslation of the two translation works is also one of the purposes in this study.

〔付録1〕 カタカナ一覧表

NO.	原文	ページ数	頼訳	ページ数	林訳	ページ数
1	レイディオヘッド	上、101	Radiohead	上、101	电台司令 (Radiohead)	65
2	クリーム	上、232	Cream	上、189	奶油乐团	146
3	アドルフ・アイヒマン	上、226	阿道爾夫・艾希曼 (Adolf Eichmann)	上、185	阿道夫・爱希曼	142
4	ナチ <sup>1</sup>	上、226	納粹	上、185		
5	イエーツ	上、227	葉慈	上、186	叶芝	143
6	デューク・エリントン	上、232	Duke Ellington	上、189	埃林顿公爵	146
7	ユーリピデス	上、267	尤里庇里斯 (Euripides)	上、217	欧里庇得斯	167
8	アイスキュロス	上、267	愛斯其洛斯 (Aeschylus)	上、217	埃斯库罗斯	167
9	アリストパネス	上、220	阿里斯托芬尼	上、220	阿里斯托芬	169
10	ソフォクレス	上、307~308	沙孚克里斯 (Sophocles)	上、249~250	索福克勒斯	192
11	ハレ・クリシュナ <sup>2</sup>	上、313	克里希納 (Hare krishna)	上、254	克利什那	195
12	リインカーネーション	上、55	輪迴轉世 (Reincarnation)	上、46	reincarnation	35
13	ニューエージ	上、55	New Age	上、46	New Age	35
14	ポロシャツ	上、91	Polo 衫	上、77	短袖运动衫	59
15	チノパンツ	上、91	斜紋布長褲	上、77	粗布长裤	59
16	スニーカー	上、91	帆船鞋	上、77	轻便运动鞋	59
17	ウォークマン	上、101	隨身聽	上、101	随身听	65
18	マスターベーション	上、101	自慰	上、101	手淫	65
19	ダンガリーシャツ	上、118	斜紋布襯衫	上、98	粗布藍衫	76
20	コーンフレーク	上、160	玉米片	上、132	玉米饼片	102
21	ダージリン	上、160	大吉嶺	上、132	大吉岭	102
22	低脂肪マーガリン	上、160	低脂乳馬琳	上、132	人造黄油	102
23	スモーク・サーモン	上、180	燻鮭魚	上、132	熏鲑鱼	102
24	タレソソ	上、180	水芹	上、132	水田芥	102
25	レタス	上、180	生菜	上、132	莴苣	102
26	ホースラディッシュ	上、180	山葵醬	上、132	辣根	102
27	オープン・ツーシート	上、186	敞蓬雙座	上、153	敞开式双排座	118
28	レーンチェンジ	上、187	變換車道	上、153~154	变换车道	119
29	シフトアップ	上、187	高速檔	上、153~154	加速	119

30	シフトダウン	上、187	低速檔	上、153~154	減速	119
31	チューンアップ	上、187	提高 性能	上、153~154	變速裝置	119
32	アーティキュレーション	上、191	斷句 (articulation)	上、157	承轉	120
33	ルバート	上、191	彈性速度 (rubato)	上、157	放慢	120
34	ハイビーム	上、195	遠光	上、160	灯光束开得足足的	124
35	ブレーキ	上、195	煞車	上、160	制動	124
36	アクセル	上、195	加油	上、160	加速	124
37	ギア	上、195	排檔	上、160	車檔	124
38	セカンド	上、195	二檔	上、160	2	124
39	サード	上、195	三檔	上、160	3	124
40	カモミール <sup>3</sup>	上、199	甘菊茶	上、163	卡莫米尔	130
41	ヨットパーカー	上、222	連帽外套	上、182	防风衣	140
42	ウィンドブレーカー	上、225	防風外套	上、184	后外罩	142
43	CD ライブラリー	上、232	CD Library	上、189	CD 架	146
44	シットアップ	上、232	仰臥起座	上、189~190	仰臥起座	146
45	スクワット	上、232	蹲腿	上、189~190	蹲坐	146
46	ストレッチ	上、232	拉筋動作	上、189~190	伸臂動作	146
47	ワークアウト・メニュー	上、232	健身菜單	上、189~190	訓練項目	146
48	アヴォカド・グリーン	上、239	酪梨綠色	上、195	鳄梨绿	150
49	グローブコンパートメント	上、267	車上的置物櫃	上、216	仪表箱底下的小箱	167
50	コロス	上、267	Choros	上、217	Choros	167
51	ラブホテル	上、219	賓館	上、219	爱巢旅馆	169
52	パチンコ屋	上、219	伯青哥	上、219	爬金库游戏厅	169
53	デモテープ	上、272	試聽帶	上、221	录音带	170
54	ディレクター	上、272	製作人	上、221	制作人	170
55	ツナのスピナチ・ラップ	上、310	鮪魚波菜捲	上、251	金枪鱼三明治	193
56	トルティーア	上、311	托提亞 (譯註: totilla, 墨西哥式玉米薄煎餅)	上、252	玉米餅	194
57	アールグレー	上、311	伯爵茶	上、252	嘉頓 (袋泡) 茶	194
58	ゲイ <sup>4</sup>	上、313	男同性戀	上、254	變性人	195
59	レズビアン	上、313	女同性戀	上、254	同性戀者	195
60	ストレート	上、313	異性戀	上、254	男性至上主義	195
61	フェミニスト	上、313	女性主義者	上、254	女權主義者	195
62	ファシスト	上、313	法西斯	上、254	法西斯	195
63	コミュニスト	上、313	共產黨	上、254	共產主義	195
64	コロス	上、267	Choros	上、267	Choros	167

65	クロスロード	上、232	Crossroads	上、189		
66	リトル・レッド・コヴ ェット	上、238	Little Red Corvette	上、194	小小红色巡洋舰	150
67	In dreams begin the responsibilities	上、227	In dreams begin the responsibilities	上、186	In dreams begin the responsibilities	143
68	ハラスメント	上、302	harassment	上、243	harassment	188
69	ニグレクト	上、302	neglect	上、243	neglect	188
70	レッド・ヘリング	上、305	red herring	上、247	red herring	190
71	red herring	上、305	red herring	上、248	red herring	190
72	アナロジー	上、305	analogy 類比	上、248	analagy	190
73	パセティック	上、306	pathetic	上、248~249	pathetic	191
74	ジェンダー	上、307	gender	上、249	gender	191
75	フィジカル	上、307~308	生理上	上、249~250	肉体上	192
76	セックス	上、307~308	sex	上、249~250	sex	192
77	ローソン	上、124	Lawson	上、103	罗森	80
78	マクドナルド	上、219	麥當勞	上、219	麦当劳	169
79	ファミリーマート	上、219	Skylark、Denny's	上、219	家庭式商场	169
80	吉野家	上、219			吉野家	169
81	ロレックス	上、10	勞力士	上、11	劳力士	6
82	オイスター	上、10	蠔殻錶	上、11	手表	6
83	ラルフ・ローレン	上、91	Ralph Lauren	上、77	拉尔夫・劳伦牌	59
84	トップサイダー	上、91	Topsider	上、77	最高档的苹果牌	59
85	ヴァージニア・スリム	上、127	Virginia Slim	上、106	弗吉尼亚加长过滤嘴	82
86	マツダ	上、186	Mazda	上、153	马自达	118
87	ロードスター	上、186	Roadster	上、153	活动顶蓬式	118
88	タッパーウェア <sup>5</sup>	上、205	保鲜盒	上、168	塑料食品袋	130
89	ジョニー・ウォーカー	上、217	約翰走路	上、178	琼尼・沃克	137
90	フォルクスワーゲン・ゴ ルフ	上、298	Volkswagon Golf	上、243	大众・高尔夫	186
91	プリンス	上、238	Prince	上、194	王子	150
92	ナカタさん	上、77	中田先生	上、65	姓中田	50
93	えらい	上、80	偉大	上、67	很了不起	51
94	キンユウロン	上、80	金融論	上、68	金融学	51
95	イトウチュウ	上、80	伊藤忠	上、69	伊藤忠	51
96	ブチョウ	上、80	經理	上、70	部长	51

97	ツウサンショウ	上、80	通産省	上、71	通产省	51
98	ウナギ	上、80	鰻魚	上、72	鰻鱼	51
99	ショウガイシャ	上、80	残障者	上、80	残疾人士	51
100	とくべつ	上、80	特別	上、67	特別	51
101	ホジョ	上、81	補助	上、68	补助	52
102	ショウエイソウ	上、81	上恵荘	上、68	松影庄	52
103	シュウサイ	上、86	高材生	上、72	优等生	55
104	フジカワ	上、315	富士川	上、256	藤川	197
105	トーマイ	上、317	東名	上、257	东名	198
106	ソウク	上、327	走狗	上、266	走狗	204
107	二律背反	上、191	二律相悖 (antinomie)	上、157	二律背反	120
108	エレクトラ <sup>7</sup>	上、307~308	依列克特拉 (Elctra)	上、249-250	厄勒克特拉	192

<sup>1</sup> 林訳は「ナチ」を訳さなかった

<sup>2</sup> 林訳では注で梵語の krishna の音訳、印度の神様「維什努」の第八変身、と説明している。

<sup>3</sup> 「カモミール」(Chamomile) の中国語は「甘菊」である。頼訳は「甘菊茶」と訳し、林訳はそれを「卡莫米尔」と音訳している。

<sup>4</sup> 頼訳のこの例文にある七つの単語についての訳し方は基本的に適切である。一方、林訳では「ゲイ」、「レスビアン」、「ストレート」を「変性人」、「同性恋者」、「男性至上主义」と訳しており、原文の意味からはずれていると考える。

<sup>5</sup> 林訳の Analagy は誤字であり、注で Analagy を「似る、類似のところ」と解釈していた。

<sup>6</sup> TUPPERWARE プラスチック製の密封保存容器だが、林訳は「塑料食品袋」(プラスチック食品袋)と訳しており、原文の意味と外れていると思われる。一方、頼訳では「保鲜盒」(食品の新鮮さを保存する容器)と訳したが、しかし、TUPPERWARE は商品ブランド名が普通名詞として使われているので、中国語に意訳するとやはり原文の意味とはずれが生じる。

<sup>7</sup> 林訳は注で『エレクトラ』(《厄勒克特拉》)の内容を簡単に解釈している。